

巻頭特集 SPECIAL 若手医師フォーラム



Special 特集：若手医師フォーラム

日常の診療で抱いた疑問を臨床研究へ。 若い発想を活かして意欲的に挑戦しよう。

2019年11月8～9日、名古屋国際会議場で第73回国立病院総合医学会が開催されました。今回のテーマは、「令和における国立医療の挑戦～明日は変えられる～」。多彩な講演やシンポジウムが実施される中、毎年恒例となった「若手医師フォーラム」が行われました。

このフォーラムは国立病院機構に所属する若手

医師を対象にしたもので、各自が取り組んできた症例や研究について発表する貴重な機会です。交流の場を持ちつつ、お互いに刺激しあっているという趣旨でスタートしました。

今回は全国の機構病院から23題の応募があり、10題が英語による口演、13題は英語によるポスターセッションという形で発表されました。

口演発表で最優秀賞に輝いた大川愛美先生(埼玉病院)と小堀大河先生(三重病院)、ベストポスター賞に選ばれた生田源起先生(熊本医療センター)と関野晃子先生(仙台医療センター)にお話をうかがいました。なお、最優秀賞の大川先生、小堀先生には副賞として国際学会への参加費用が補助されます。

Special 特集：若手医師フォーラム

英語力・プレゼン力を磨く絶好の機会。 国際的な舞台を見据えたステップにも。

口演発表最優秀賞

Prevalence of serious bacterial infections among febrile infants younger than 3 months and validation of four criteria

埼玉病院 初期研修医 大川 愛美

英語でセッションできる貴重なチャンス。 同世代の発表にも感銘を受けました。

——応募のきっかけとテーマは？

今回のテーマは、生後3ヶ月未満の発熱児を対象とした臨床研究です。重症細菌感染症の疫学調査および欧米で提唱されている発熱児評価のためのcriteriaの検討を行いました。「尿路感染症の有病率が欧米よりも高い」「欧米のcriteriaは日本でも有用である」という2点が主な結論です。もともと小児科コースの初期研修医4名で臨床研究を実施するお話をいただいていたのですが、小児科診療に携わるようになり、生後3ヶ月未満の発熱児に対する評価の難しさを実感したため、このテーマを選びました。

——どんな点に苦労しましたか？

質疑応答の準備がなにより大変でした。英語は大学受験以来、ほとんど使う機会がなかったため、院内で行った予演会では質問にまったく答えられ

ず、くやしい思いをしました。指導医の先生と質疑応答の練習を繰り返し、少しずつ答えられる質問を増やしていきました。

プレゼンテーションの内容はすべて暗記して、どこからでもスムーズに話し出せるように練習しました。また、内容自体も医療統計学的にはそれほど難しいものではないのですが、分かりやすく伝えること、多少文法が間違っても自信を持って話すことを意識しました。

話し始めは少し緊張しましたが、前を向いて進められたのは良かったです。質疑応答は簡潔に答えすぎたかなとも感じますが、概ね練習通りに発表を終えることができました。キーポイントを強調するように気をつけたものの、ポインターを使うなどの発表の仕方はもう少し工夫ができたかもしれません。

他の発表者もほとんどの方が初期研修医で、か



つ、難しい内容の発表でしたので、とても刺激になりました。スライドの分かりやすさなど、参考になる点も多くありました。

——今後参加する方へのアドバイス

海外で英語の発表をするのはかなり勇気が必要ですが、初期研修医のうちから応募できる英語セッションの機会があるのはありがたいです。日本語より大変ですが、頑張れば、皆さんに応援してもらえますし、得られるものが多いことも確かです。初期研修医が1人で全部を担うのは厳しいと思いますので、指導医の先生や仲間たちと取り組んでください。

口演発表最優秀賞

A birth cohort study to identify biomarkers for tolerance or allergy to food in infancy

三重病院 アレルギー科、小児科 小堀 大河

長年、取り組んで来た研究の成果を発表。 アレルギーに苦しむ子どもたちを救いたい。

——応募のきっかけとテーマは？

今回のテーマは、食物アレルギーがなぜ発症するのかというブラックボックスに焦点をあて、「食物アレルギーの発症と免疫寛容（通常通り食べられるという状態）の違いについて、免疫グロブリンの親和性がどのように関わるかを研究する」というものです。

先行研究において、徳島大学生体防衛病態代謝研究分野の木戸博教授が開発されたDLC (diamond-like carbon) チップという高感度マルチ抗原アレルギー診断チップを用い、今までIMMUNOCAP測定では検出できなかったIgEが臍帯血や母体血の中で発見され、それが低親和性のIgEであることが分かりました。さらに、OVM (オボムコイド) 特異的IgEについて親和性を調べると、低親和性のIgEではなく、高親和性のIgEの優位な群が持続性の湿疹に強く関与することが分かっ

ています。食物アレルギーについても、おそらく低親和性のIgEの優位な群が免疫寛容に、高親和性のIgEの優位な群が食物アレルギー発症に関わると思われませんが、実際に食物負荷試験で確認したわけではないため、1歳時点で確かめることがポイントでした。

食物アレルギーは増加傾向で、アナフィラキシーのリスクも考えると、社会的にも重要な疾患の1つです。特に乳幼児期に発症することが多く、小児科医だけでなく幼子を育てる保護者からも、疾患の理解と治療の進展に期待が持たれている分野でしょう。

今回の研究を通して食物アレルギーの診断について、さらに有用なバイオマーカーが発見されれば、機序の理解や誤解の軽減、今後の治療に結びつくと考えています。そのような点からやりがいを感じ、テーマに選びました。

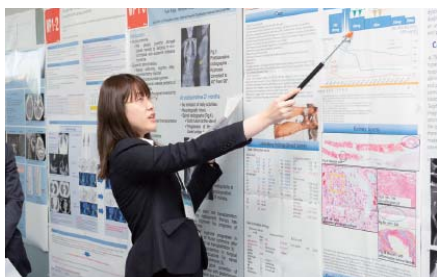


——どんな点に苦労しましたか？

アレルギー分野について普段聞き慣れていない方でも理解しやすいように、できる限り分かりやすくスライドを準備しようと考えました。発表時間が6分とやや短めだったこともあり、言いたいことをまとめるのに苦心しました。

——今後参加する方へのアドバイス

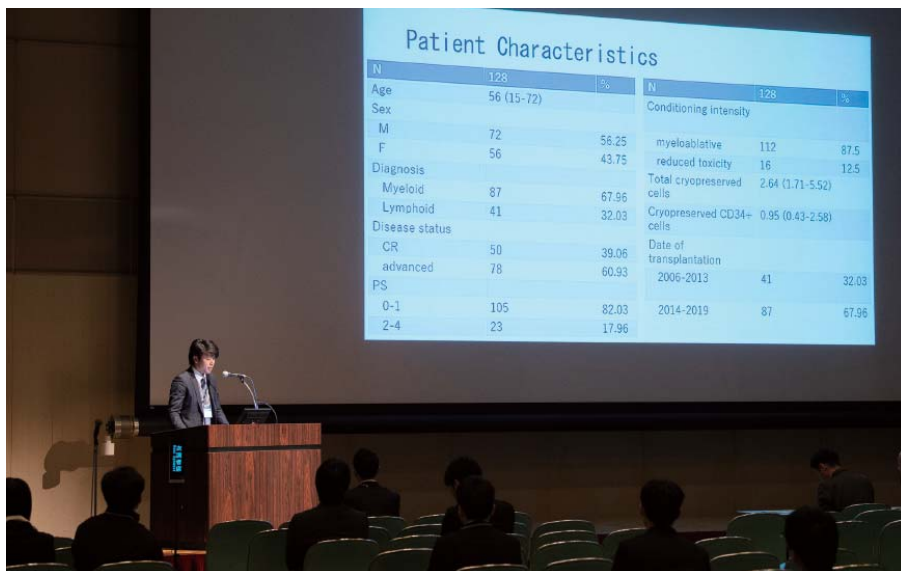
日常の臨床的な疑問をそのままにせず、研究として調べて発表する姿勢は分野を超えて刺激を受けます。若手の先生方の熱意に触れる機会に参加でき、今後の活力になりました。将来、世界に羽ばたいていく若手、特に研修医の先生方に積極的に参加していただきたいです。



ポスターセッション



ディスカサントの先生方



口演発表

Patient Characteristics

N	128	%	N	128	%
Age	56 (15-72)		Conditioning intensity		
Sex			myeloablative	112	87.5
M	72	56.25	reduced toxicity	16	12.5
F	56	43.75	Total cryopreserved cells	2.64 (1.71-5.52)	
Diagnosis			Cryopreserved CD34+ cells	0.95 (0.43-2.58)	
Myeloid	87	67.96	Date of transplantation		
Lymphoid	41	32.03	2006-2013	41	32.03
Disease status			2014-2019	87	67.96
CR	50	39.06			
advanced	78	60.93			
PS					
0-1	105	82.03			
2-4	23	17.96			

ベストポスター賞

A dequate Chronic Kidney Disease (CKD) Managements May Increase the Number of Hemodialysis (HD) Patients

熊本医療センター 初期研修医 生田 源起

市の対策事業の成果と来院患者の差異に着目。参加者の意識の高さに刺激を受けました。

今回のテーマは、積極的なCKDへの介入は透析導入数を増やす可能性があるということです。熊本市では2009年より透析導入数を減らそうと市をあげてCKD対策事業に取り組み、実際、透析導入数は減少しています。しかし、当院ではむしろ透析の導入数が増加しているのを不思議に思い、市の対策事業が始まってから、当院の年間透析導入数などの推移を調べました。本来なら早期介入により、透析導入数は減り、医療費の削減が見込まれるはずですが、必ずしもうまくいかない点に着目しました。

大変だったのは、通常の病棟業務の合間で

行った統計などのデータの翻訳です。自分は帰国子女ではないため、お世話いただいた臨床研修部長の富田先生のお力添えで、なんとか期限内に終わらせることができました。また、質問を想定した準備にも苦労しました。

練習では発表時間を超えることも多かったのですが、本番ではなんとか時間内に終わらせることができました。ただ、文章にメリハリをつけて読んだり、観客を見ながら話したりすることがあまりできなかったのは残念でした。

他の発表を聞きましたが、どの参加者も細部まで詰めていて、意識の高さに刺激を受けました。



また、今回のように英語に翻訳して英語で話すという過程はなかなか経験できないこともあり、非常に勉強になりました。

熊本医療センターでは、外国人の先生を招聘して研修医全員がプレゼンテーションするというイベントが毎年あり、その経験がとても役に立ったと思います。

ベストポスター賞

A rare case of human hepatic dirofilariasis

仙台医療センター 消化器内科 関野 晃子

苦手意識のある英語に少し自信が持てました。今後は世界レベルの医療にも目を向けたい。

今回のテーマは、犬糸状虫の内臓幼虫移行症による肝好酸性肉腫の1例です。犬糸状虫はイヌを終宿主とする寄生虫で、ヒトへ侵入しても死滅することがほとんどですが、ヒトの肺へ寄生する肺犬糸状虫症の報告はいくつかあります。肝臓へ寄生した報告は世界的にもまれであり、今回報告させていただくこととしました。

準備では英語の文章作成がとにかく大変でした。医学英語特有の言い回しもあり、似たような論文を探して真似るところから始めましたが、結局、指導医の先生にほとんど修正していただくことになってしまいました。ただ、非常に勉強になりました。

当日は緊張もあり、暗記した原稿をうまく話すことができませんでした。質疑応答に関しては、予想していた質問には英語で答えられましたが、想定外の質問には日本語も交えて説明してしまいました。発表者の自分では思いつかない質問もあったため、どんなことを疑問に思うのかを他の先生方に聞いておけば良かったのかもかもしれません。

皆さん珍しい症例を報告していて、とても興味深いものでした。英語での発表ということもあり、すべてを理解したわけではありませんが、自分で苦労して発表した上で、他の人の発表を聞くことにはないものに気づかされました。



英語で発表するにあたり、関連した英語の論文を読み、また、自分で文章を作成する過程を経て、少しですが、英語に自信を持てるようになりました。今回の経験を活かして、世界レベルの医療にもっと関心を持っていければと思います。

Experience 研修情報紹介

令和元年度良質な医師を育てる研修

国立病院機構では、毎年、多彩な内容で「良質な医師を育てる研修」を開催しています。豊富な経験を持つ先生方が講師を担当。実践的なスキルが身につく充実のプログラムを提供しています。今回は7月に行われた「センスとスキルを身につける未来を拓く消化器内科セミナー」と、9月に行われた「神経・筋（神経難病）診療中級研修」をご紹介します。

「センスとスキルを身につける！
未来を拓く消化器内科セミナー」

消化器疾患に関わる知識や手技は幅広く、臨床経験の少ない医師にはさまざまなハードルがあります。今回の「センスとスキルを身につける！未来を拓く消化器内科セミナー」では、初期研修医・専攻医・専修医をはじめ、消化器内科のプロを目指す医師が立ち上がるために必要となる消化器疾患領域（上部消化管、下部消化管、肝臓、胆膵、腹部救急）をカバーするプログラムを企画しました。

1日目は、消化器疾患の診断と治療に必要な各種画像診断の基礎知識（腹部、CTやMRI検査など）を学ぶ講義のほか、救急疾患の画像診断、肝臓および胆膵領域の画像診断の演習を実施しました。2日目には、腹部超音波検査、ERCPの基本操作の講義のあと、4人1組のグループで7ブースに分かれ、内視鏡検査と内視鏡治療のハンズオンを行いました。集中的に手技が学べる実践的な内容が参加者の皆さんに好評でした。

参加者の声

〈参加者の声 1〉

2日目の演習のハンズオンでさまざまな手技（ESD、ERCP、上部下部、エコーなど）を体験させていただき、良い経験となりました。

〈参加者の声 2〉

臨床に沿った講義・演習が受けられて勉強になりました。ポイントを絞ってコツや知識を教えてくださいましたのも、とてもためになりました。

〈参加者の声 3〉

第一線で活躍されている先生方のお話をたくさん聞くことができ、密度の濃い2日間でした。

〈参加者の声 4〉

講義の数が多く、バラエティに富んでいたうえ、専門的な内容もあり、面白かったです。

〈参加者の声 5〉

普段の業務であればハードルの高い手技でも、ハンズオンで自由に触れることができました。上級医の先生方のご指導のもと、的確なアドバイスが得られたのも有意義でした。

〈参加者の声 6〉

放射線の講義はなかなか受ける機会がありませんが、画像診断の初歩的な部分から学ぶことができ、大変勉強になりました。もっと勉強したいです。

〈参加者の声 7〉

内視鏡を操作するにあたり、挿入方法やピロリ菌診断など、基礎的なところから教えていただいた点が良かったです。今後役に立ちます。

〈参加者の声 8〉

講師の先生方がやさしく丁寧に教えてくださったので、疑問点も聞きやすく実践的でした。

令和元年度 良質な医師を育てる研修

「センスとスキルを身につける！
未来を拓く消化器内科セミナー」

対象：①初期研修医および後期研修医（専攻医ならびに専修医）

②卒後4年未満の医師

日時：令和元年7月19日（金）～20日（土）

会場：国立病院機構九州医療センター

参加者：28名

■ 研修内容

1日目

講義：肝疾患のCT、MR診断

講義：腹部救急の画像診断

演習I：救急症例

講義：内視鏡の基本操作、上部消化管内視鏡観察法

ミニクイズ：たかが腹単、されど腹単①

講義：完璧に理解するピロリ菌と胃炎診断

講義：内視鏡で消化管癌死亡数は激減できる！

講義：大腸内視鏡挿入の基本操作

講義：ERCPの基本操作

2日目

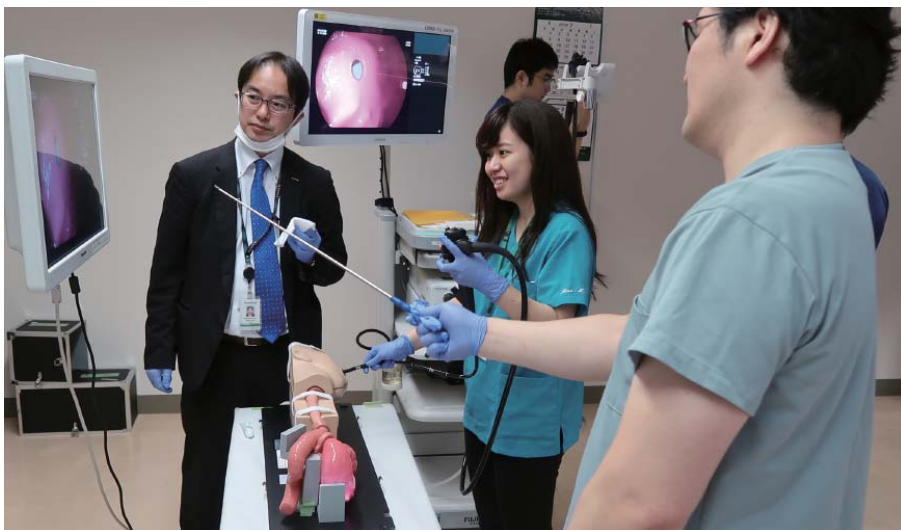
講義：ここまで見える！腹部超音波検査

講義：腹部超音波の操作基本

ミニクイズ：たかが腹単、されど腹単②

演習II：ハンズオン／7ブース

1.腹部超音波／2.上部消化管内視鏡／3.下部消化管内視鏡／4.ERCP／5.EST／6.ESD／7.ダブルバルーン



Experience 研修情報紹介

「神経・筋(神経難病)診療中級研修」

国立病院機構では、診療と研究の柱の1つとして神経・筋疾患に取り組み、全国にある多数の病院のネットワークを通して医療の向上に努めています。今回の「神経・筋(神経難病)診療中級研修」は、初級者ではなく、神経疾患関連のプロフェッショナルを目指す若手医師をターゲットにその魅力を伝え、次世代の診療の担い手を育成することを目的に企画しました。

中級者を対象とした研修のため、単に診療の知識や技術だけにとどまらず、幅広く深い内容をあえて盛り込んだのも、この研修の特徴です。

特定疾患制度の歴史を学び、慢性の神経疾患を抱える患者さんを地域でいかに支えるか。また、患者さんやご家族の視点で神経難病を考えるなどをテーマに、参加型のプログラムを盛り込み、機構病院らしい意欲的な内容をねらいました。2日目には、所属病院ではなかなか経験しないであろう、ALS医療に対するディベートを実施。1つのテーマを皆で掘り下げることができ、良い経験になったとの感想が多く、好評のうちに終了しました。

令和元年度 良質な医師を育てる研修

「神経・筋(神経難病)診療中級研修」

対象：神経内科後臨床研修医・専攻医・専修医
(日本神経学会認定専門医取得前後の医師)
卒後3年以上の者で神経内科領域に関心のある医師

日時：令和元年9月27日(金)～28日(土)

会場：国立病院機構静岡医療センター

参加者：15名

■ 研修内容

1日目

講義：難病医療概論
講義：神経所見を考える
講義：ディベートの説明
講義：神経疾患の症状・画像と病理
講義：一患者の経験から語る
講義：コミュニケーション機器の体験
意見交換会

2日目

講義：脳波判読のエッセンス
講義：次世代の脳神経内科に期待する
講義：ディベート (ALS医療)



参加者の声

〈参加者の声 1〉

神経症候学・画像病理・神経生理と多くの領域について、まんべんなく取り上げていただいたのが良かったです。すごく勉強になりました。

〈参加者の声 2〉

神経難病や神経系の症例について、歴史的背景も踏まえながら学ぶことができ、とても贅沢な2日間でした。ありがとうございました。

〈参加者の声 3〉

多彩なプログラムがあり、非常に有意義でした。特に脳波やディベートは大変勉強になりました。また、是非開催していただきたいです。

〈参加者の声 4〉

脳波や神経所見の取り方のレクチャーは初級者向けで大変分かりやすい内容でした。知らないことも多く、たくさんの気づきがありました。

〈参加者の声 5〉

2日目のディベートでは1つの問題について深く考えることができました。学ぶことが多く、運営してくださった先生方に感謝しています。

〈参加者の声 6〉

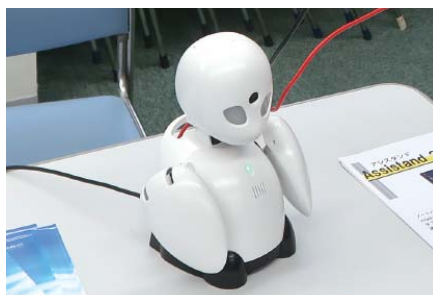
脳神経内科の診療に必要な所見、画像、病理といった知識や診療の仕方を臨床経験豊富な先生方から学ぶことができました。勉強しにくい内容も多く盛り込まれ、勉強になりました。

〈参加者の声 7〉

発作中の患者さんの動画が分かりやすく紹介され、ためになりました。難しい内容も多かったのですが、勉学に励むモチベーションになりました。

〈参加者の声 8〉

多岐に渡る神経疾患の講義が受けられ、患者さんの声が聞けたのが良かったです。明日からの診療に役立つ内容も多く実践的な研修でした。

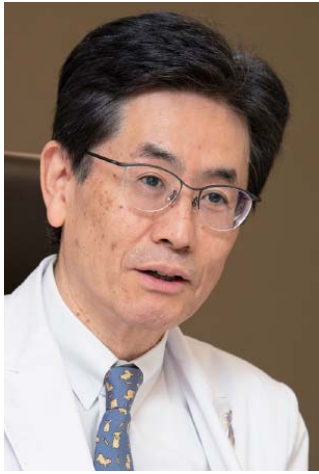




Hospital 病院クローズアップ

国立病院機構

九州がんセンター



院長PROFILE

藤 也守志(とう・やすし)
1984年九州大学医学部卒業。
1994福岡市民病院外科医長、1997年以降、国立病院九州がんセンター臨床研究部医長、消化器外科医長、消化器外科部長、専任診療部長、統括診療部長、副院長を経て、2015年同センター院長に就任。
所属学会：日本食道学会、日本気管食道学会、がん治療認定医機構、日本胸外科学会、日本癌治療学会、日本消化器癌発生学会、日本医療マネジメント学会
認定医の資格：日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医

九州がんセンター DATA

■ 所在地
福岡県福岡市南区野多目3-1-1
<https://kyushu-cc.hosp.go.jp/>

■ 病床数
411床

■ 診療科目

消化管外科/肝胆外科/呼吸器腫瘍科/婦人科/頭頸科/乳腺科/泌尿器科/整形外科/皮膚腫瘍科/形成外科/歯科口腔外科/血液内科/小児科/消化器・肝胆膵内科/消化管・腫瘍内科/消化管・内視鏡科/サイコoncology科/循環器科/緩和治療科/細胞治療科/老年腫瘍科/麻酔科(手術部)/画像診断科/放射線治療科/病理診断科/臨床検査科/リハビリテーション科

■ 研修の特色

当院の研修は後期研修医、レジデント、フォローを対象にしています。初期研修医を教育する場ではないため、現在、九州大学と関連施設の調整を始めているところで、レジデント、フォローにとっては良い環境で、とくにチーム医療に関しては非常に大きな経験になります。診療科同士のディスカッションも多く、全職種が何十人と集まって議論しますので、勉強になると思います。

日本をリードするがん専門病院へ さらには世界トップレベルを目指していく

当院はがん専門病院です。診療の一番の特徴としては、診療科間と他部門との垣根が低く、チーム医療が推進できていることでしょうか。2つ目はがん専門施設としての総合力。全スタッフで1人の患者さんを診ていくことに関しては、本当に優れていると思います。ほとんどのチームが相互に連携して、お互いの活動を理解しあっています。

当院はがん専門病院として、日本のトップレベルを、さらには世界を目指さないといけないと考えています。世界のトップレベルとは、どういう状況を言うのか。治療成績や総合力が良いのはもちろんのこと、客観的な指標として、全世界から医療団がどんどん派遣され、見学に来るような病院にしたいと思っています。数年前にはがん研有明病院の方がいらっやいましたし、2018年はタイからも来院されました。タイには8つのがんセンターがあり、当院に派遣された全員が各がんセンターのトップの方です。世界レベルにはまだまだですが、日本国内では九州がんセンターの認知は相当高まっているという自覚と自信があります。

2018年7月には訪問看護ステーションがスタートしました。創設した理由は、我々が在宅医療のお医者さんをお願いしたり、訪問看護ステーションに頼らだりしているにもかかわらず、在宅医療がどんなものなのか、患者さんはどんな生活をしているのか、実際にはよく知らないからです。それでは本当に切

れ目のないがん医療はできないのではないかと考えました。訪問看護ステーションを併設することにより、当院のスタッフが退院後の在宅医療について考えるきっかけをつくりたいというのが一番の目的です。

また、当院の特徴として、治験と臨床試験があります。治験については機構病院内で、2018年はトップでした。臨床試験の数もとても多いのですが、うち3分の2は国際治験です。第1相試験、第2相試験も多く、企業からそういうオーダーがあるのは実績が認められている証拠だと思います。

がん専門病院としては、手術だけでなく、がん全体を診ることを心がけています。全人的医療ですね。実際、他のスタッフと一緒に学ぶことはたくさんあり、それが高いレベルで実践できている施設だと自負しています。

若手医師へのメッセージですが、若い医師でも臨床試験は当然必要ですし、心のケアについても自分のバックグラウンドとして持ってほしいですね。それがないとチーム医療を行う際、看護師とのコミュニケーションがうまくいかないというケースも出てきます。そういうことが当院にいると学べると思えます。若いからこそ、そういう面まで知っておくべきで、私の専門は外科ですが、いろいろな外科医を見てきて、研修医の時の教育がとても大切だと感じています。



手術室の様子



外来化学療法室



アビランスケールーム



太宰府天満宮
出典 癒し憩い画像データベース/
NPO法人癒し憩いネットワーク

九州がんセンターのある街

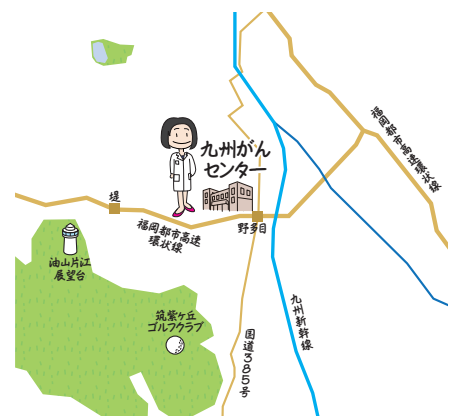
お洒落な繁華街だけじゃない、自然もたっぷり癒される街

福岡には見どころがたくさんある。学問の神様で知られる太宰府天満宮、博多の総鎮守としてお櫛田さんの愛称で親しまれ、夏の風物詩でもある祇園山笠行事が行われる櫛田神社、そして、九州一の繁華街、天神や美味しいものが並ぶ屋台など。一方、市民の憩いの場所といえば、九州がんセンター近くにある「油山市民の森」。標高597mの油山の中腹にあり、緑に囲まれた広大な森林を市民に開放した場所だ。敷地には野鳥や植物など豊かな自然があふれる。キャンプ場や展望台もあり、「もーもーらんど油山牧場」へと続く遊歩道も整備されており、天気の良い日には自然を堪能しな

がらのんびり散歩できる。

「もーもーらんど油山牧場」には羊や牛がいて、羊の毛刈りの実演を目の前で見学したり、牛のちちしまり体験を楽しめたりする。乗馬体験やローラー滑り台などもあり、1日たっぷり遊べ、家族連れに人気の場所だ。天気の良い日には展望台付近の放牧地に牛を放すそうだ。運が良ければ牛の行進に遭遇できるかもしれない。

また、福岡市内には天然温泉施設がたくさんあり、大橋駅から徒歩15分のところには博多温泉がある。昭和の雰囲気があるまま残っている穴場的温泉だ。ほっこりしたいなら、是非ここへ。



Hospital 病院クローズアップ

国立病院機構

名古屋医療センター

患者さんを中心に、患者さんの立場に立ち、安全で質の高い医療を提供する

当院は名古屋市中核病院として、重要な役割を担っている総合病院です。急性期の第三次救急の専門病院として、地域の中での使命をしっかりと果たしていかなければいけないと考えています。また、当院は歴史的にもがん診療に長くかかわっています。血液のがんを中心に、固形がんを含めたがん診療に強い病院として位置づけられています。

当院のもう1つの大きな特徴は臨床研究です。機構病院の中でも研究機能を期待されているため、各診療科の先生方も、研究センターも、「研究」に高い意識で望んでいます。地域医療とともに臨床研究もできるという機能があるため、それを堅持しつつ、さらに展開させていきたいと考えています。優れた医療を提供すること、あわせて臨床研究を推進して患者さんにとってより良い医療を開発していくことが大きなミッションだと考えています。

医療者や医療施設で働く人は誰しも、病める人に対して安全で質の高い医療を提供したいと思っていますのではないのでしょうか。それは研究者も同じです。直接患者さんに関わらなくても、良い研究をすれば、それがやがて患者さんのためになり、安全で質の高い医療を提供する大きな役割を果たすこととなります。最終的な目的は患者さんにより良い医療を提供すること、私たちはその目的のために努力を惜しみません。名古屋市内の急性期総合病院としてますます力を発揮しながら、臨床研究を

通じてトータルに患者さんを診ていく病院でありたいと思っています。

医療は患者さんが診察室に入ってくるころから始まります。どういう歩き方で入ってくるのか、どういう顔色で入ってくるのか、どういう特徴があるのか。座って話を始めたら、どういう話し方をして何を話すのか、情報をすべて集めながら診断に入っていきます。いろいろな情報を得て、考えて答えを出していく。患者さんは「人」なので、全身を診ることがすごく重要です。これからの時代は高齢者が増えていくこともあり、さまざまなバックグラウンドがあり、病歴も長くなります。トータルに診断できることは、とても大切です。そういう点では、内科、外科も含めてトータルに全身を診れる人が今後、求められますし、それができないと医療人として生き残っていけないのではないのでしょうか。当院は、研修医に対してトータルな教育を通して全人的に患者さんを診られる、そのような医師の育成を目指しています。

若い先生方には、学びたいことがあればどんどん挑戦してほしいですし、将来のキャリアパスがきちんと描けるようなサポートをしていきたいと考えています。



院長PROFILE

長谷川 好規 (はせがわ・よしのり)

1980年徳島大学医学部卒業。

2007年名古屋大学大学院医学系研究科呼吸器内科学教授、2016年名古屋大学総長補佐を経て、2019年名古屋医療センター院長に就任。

第30回日本医学会総会2019年中部総務委員長、2019年日本内科学会総会会長、2020年日本呼吸器学会学術講演会会長、日本内科学会筆頭副理事長、日本呼吸器学会理事、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会常任理事、日本結核病学会理事、日本アレルギー学会代議員を務める。

名古屋医療センター DATA

■所在地

愛知県名古屋市中区三の丸4-1-1

<https://www.nnh.go.jp/>

■病床数

726床（一般688床、精神38床）

■診療科目

内科 / 感染症内科 / 腎臓内科 / 糖尿病・内分泌内科 / 血液内科 / 腫瘍内科 / 緩和ケア内科 / 脳神経内科 / 精神科 / 呼吸器内科 / 消化器内科 / 循環器内科 / 小児科 / 外科 / 乳腺外科 / 呼吸器外科 / 小児外科 / 形成外科 / 整形外科 / 脳神経外科 / 心臓血管外科 / アレルギー科 / リウマチ科 / 皮膚科 / 泌尿器科 / 産婦人科 / 眼科 / 耳鼻いんこう科 / 頭頸部外科 / リハビリテーション科 / 放射線治療科 / 放射線診断科 / 麻酔科 / 歯科口腔外科 / 救急科 / 病理診断科 / 臨床検査科

■研修の特色

第三次救急指定病院で精神科病棟を併設していますので、経験できる症例数や種類が豊富で、幅広い臨床研修ができます。1年次の最初に1年分のローテーションを決め、残りは上級医のアドバイスを受けながら進むことができます。そのため、柔軟なプログラムになっています。また、地域医療研修にも力を入れており、地域密着型の診療所研修や搬送のトリアージなども経験できます。



CT検査室



臨床研究センター



救命救急センター

名古屋城本丸御殿
提供 名古屋城総合事務所

名古屋医療センターのある街

日本の三大都市圏の1つ。盛んなものづくりの技が継承されている。

地元の人に「熱田さん」と呼ばれて親しまれている熱田神宮には三種の神器の1つ、伝説に登場する日本武尊が持っていたとされる草薙御剣が収められている。また、戦国時代に日本を統一へと導いた織田信長、豊臣秀吉、徳川家康といった武将はこの地域と深い関係がある。今から400年前、徳川家康がそれまで清須にあった街をこの地へ移転。街並みが整備されて大きく発展していった。名古屋城の東にはかつての300石級の中級武士の屋敷地などが残る。

観光の定番スポットも多く、武家文化や古い街並みを楽しむなら、名古屋城や徳川美術館、神社仏

閣巡りをするなら、熱田神宮や熱田神宮宝物館、アミューズメントに興味があるなら、リニア・鉄道館、ものづくりに興味があるなら、リタケの森やトヨタ産業技術記念館、トヨタ博物館、ものづくり文化の道など、見どころがたくさんある。自分の興味のあるテーマに絞って街をそぞろ歩くのも楽しそうだ。

東西の都に挟まれながら、名古屋には独特の食文化「なごやめし」もある。味噌煮込みや味噌カツ、ひつまぶし、手羽先、あんかけスパなど、甘辛で濃い目の独特の味が揃い、名古屋を訪れる人たちの楽しみにもなっている。



専門分野のスキルアップを応援。 国内留学制度「NHOフェローシップ」。

国立病院機構では全国141病院のネットワークを活かし、研修医・専修医の方々のスキルアップを応援する「NHOフェローシップ」を用意しています。短期間で専門ジャンルの知識がしっかり身につく、所属病院では経験できない症例などを幅広く経験できる点が魅力です。国内留学を経験された先生の声をご紹介します。

経験者の声

呼吸器内科研修プログラム

肺がんの標準治療後の「延長戦」を経験。患者さんに提案する選択肢が増えました。

担当しているがん患者の方の標準治療が終了し、次からガイドラインには記載されていない化学療法を行うことになりました。その際に患者さん自身から次のように質問を受けました。

「先生、私の状況は野球でたとえると何回くらいにあたるでしょうか。」

現在、肺がんは、組織型、遺伝子変異、PD-L1などを考慮し、ガイドラインに沿って治療が行われています。しかしながら、そのガイドラインを作っている現場はどのような場所なのか。また、ガイドラインの記載終了後はどう治療しているのか（ガイドラインには緩和治療と記載されていますが、実際にはそうはいきません）という疑問が浮かび上がりました。ガイドラインの「前」と「後」を学ぶことを目標として、9月の1ヶ月間、四国がんセンターでの短期留学を希望しました。

「だいたい7回くらいでしょうかね。効かなければ9回裏ツーアウトになる可能性もあります。」

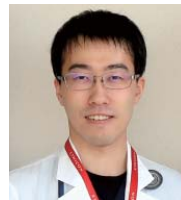
患者さんにそう答えて、研修に臨みました。

四国がんセンターでは、ガイドラインになる前の第1相から第3相の治験が複数課題あり、それを実践している患者さんを経験させてもらうことができました。また、ゲノムエキスパートパネルや、次世代シーケンサーを使用した症例の検討にも参加させていただきました。次世代シーケンサーの結果、遺伝子変異が見つかり、新規の分子標的薬を使用して、半年間、腫瘍縮小が得られている症例を目の当たりにすることができました。標準治療終了後も化学療法をあきらめずにサルベージ療法を行い、奏功した症例も経験し、エビデンスに基づいた具体的なサルベージ療法のレジメンもご指導いただきました。また、緩和ケアへ移行し、緩和ケア病

棟で穏やかに最期を待つ症例まで幅広く経験することができました。

本研修を通して、サルベージ療法が効くという「延長戦」もありうることを経験しました。また、化学療法を提示していくように、緩和ケアへの移行を選択肢の1つとして提案していく姿勢も重要です。患者さんたちに今後、この研修で得られたことを伝えられたらと思います。

当初掲げていた目標以上の成果を得られましたが、それ以上に、常に最先端を走っている先生方とご縁ができたことも貴重な経験でした。ご指導いただいた先生方に感謝すると同時に、今後も交流を続けられたらと切に願っています。



三重中央医療センター 呼吸器内科
西村 正

DATA

留学先病院：四国がんセンター
留 学 日 程：2019年9月1日
～2019年9月30日
留 学 期 間：1ヶ月間

Experience 研修情報紹介

令和元年度「良質な医師を育てる研修」

国立病院機構では、毎年、多彩な内容で「良質な医師を育てる研修」を開催しています。豊富な経験を持つ先生方が講師を担当し、実践的なスキルが身につく充実の内容です。来年度も引き続き、同様の研修が開催される予定です。プログラム内容をご参考の上、是非ご参加ください。

病院勤務医に求められる総合内科診療スキル

対象：初期研修医および後期研修医、卒後10年未満の医師
日時：令和元年6月27日(木)～28日(金)
会場：国立病院機構岡山医療センター
募集定員：30名

■ 研修内容

1日目

アイスブレイク

- 〈ステップ1〉 発熱で救急外来受診。応答は不明瞭で血圧104/62、脈拍102、呼吸回数20どう行動しますか？
- 〈レクチャー〉 頭と体を総動員しよう
- 〈ステップ2〉 緊急入院となりましたが、夜間大声を上げて騒いでいます。どう行動しますか？
- 〈レクチャー〉 せん妄のマネジメントについて
- 〈ステップ3〉 菌血症がありそうです。感染巣の検索と治療プランは？
- 〈レクチャー〉 発熱の臨床推論、熱源検索、抗生薬選択の原則など
- 〈ステップ4〉 経口摂取を開始しましたが、誤嚥性肺炎になりました。どう行動しますか？
- 〈レクチャー〉 嚥下機能評価と誤嚥性肺炎の治療について

2日目

- 〈臨床クイズ〉 「あなたも Dr.G！」
- 〈ステップ5〉 患者さんは誤嚥を繰り返しています。肺炎の治療を続けることが本当に患者さんのためになっているのかどうか自信がなくなりました。どのように考えればよいのでしょうか？
- 〈レクチャー〉 人生の最終段階での意思決定、ACPなど
- 〈クイズ〉 解決！臨床現場頻出プロブレム—病棟診療のちょっとした疑問に答える—
- 〈ステップ6〉 病状は落ち着き退院が決まりそうです。その前に処方を見直すことにしました。どうしますか？
- 〈レクチャー〉 ポリファーマシーについて

循環器疾患に関する研修

対象：初期研修医、専攻医・専修医1年目程度の医師
日時：令和元年10月3日(木)～4日(金)
会場：国立病院機構岡山医療センター
募集定員：40名

■ 研修内容

1日目

〈講義〉

- 診察法
- 心電図
- 症例からみた循環器疾患

〈Hands on Session①〉

- 心エコー実習（心臓・頸部動脈など）
- PCI・EVTシミュレーション
- CPA対応実習（BLS、PCPS、ペースメーカーリード操作）

2日目

〈講義〉

- 心臓エコー
- 心不全・心リハ
- PCIについて
- 〈Hands on Session②〉
- 心エコー実習（心臓・頸部動脈など）
- PCI・EVTシミュレーション
- CPX、人工呼吸器、NHF体験、CRT

脳卒中関連疾患 診療能力パワーアップセミナー

対象：初期研修医および後期研修医
日時：令和元年11月1日(金)～2日(土)
会場：国立病院機構仙台医療センター
募集定員：30名

■ 研修内容

1日目

〈グループワーク〉

- ①脳卒中急性期の診療
- ②慢性期症例に対する治療

〈デモンストレーション〉

頸動脈ステント留置術（CAS）ライブ

〈パネルディスカッション〉

「この症例をどうするか」(ミニ解説：NIHSS、ASPECTS、ガイドライン)

2日目

〈グループワーク〉

脳卒中の内科的治療

〈実習〉

脳卒中の血管内治療ハンズオン

〈グループワーク〉

NIHSSの取り方のコツ!

〈実習〉

神経超音波検査（頸動脈及び経頭蓋エコー）